

国内企業業績の動向と株式市場

2019年3月期通期の決算は、全体では前年比で小幅減益

- **世界的な景気減速の悪影響を受けて、通期企業業績は小幅減益**
- **外需の落ち込みにより製造業の業績は悪化した一方、非製造業（除く金融）の業績は堅調**
- **自社株買いの増加と業績の底打ち期待により、今後の株式市場は安定的な推移を予想します。**

通期増益率は、前年比で小幅減益

- 東証株価指数500採用企業（除く金融）の2019年3月期通期決算は、純利益が前年比で▲4.9%の減益となりました。
- 多くの企業では、業績を悪化させた要因として、中国などの海外需要の低下、暖冬の影響による消費の不振、人件費などのコスト増を挙げています。

外需の不調により製造業は悪化、非製造業は堅調

- 世界的な景気減速の悪影響を受けた製造業は、純利益が前年比で▲9.8%の減益となりました。グローバル展開する企業の割合が多い「輸送用機器」や「精密機器」などの業績が特に悪化しました。
- 一方で、ソフトバンクグループの好決算に牽引された「情報・通信」、大手商社が好決算となった「卸売」、などの業種が利益を押し上げ、非製造業（除く金融）は前年比で小幅増益となりました。
- 「金融」では、大手銀行の一角が赤字や大幅減益となりました。低金利が長引くなど厳しい収益環境が続いたこともあり、苦しい決算となりました。

※上記の個別銘柄への言及はあくまでも例示をもって理解を深めていただくためのものであり、個別銘柄の推奨または投資勧誘を目的としたものではありません。

今後の株式市場は安定的な推移を予想

- 企業の資本政策に変化が見られ、自社株買いが急増しています。2019年は日銀によるETF（上場投資信託）購入額を大きく上回る額の自社株買いが予定されており、株価を下支えする見込みです。
- 貿易摩擦問題は引続きリスク要因ながら、緩やかな外需の回復が見込まれ、2020年3月期決算では業績の底打ちを確認できるかがポイントです。PER（株価収益率）などの指標に割安感が見られる株式市場は、安定的な推移を予想します。

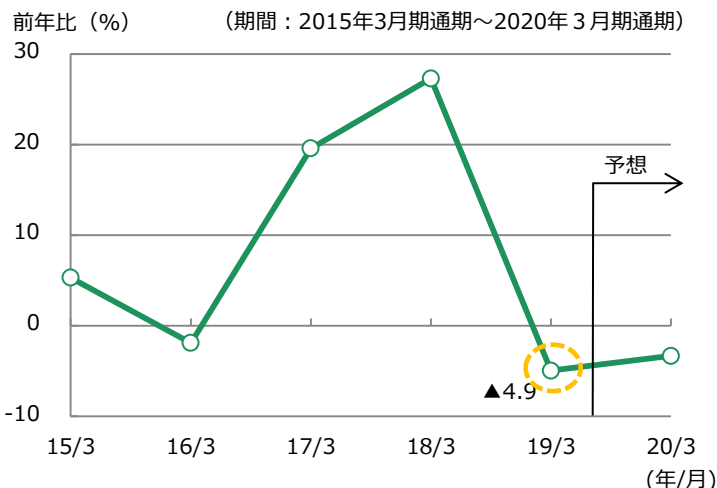
●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。

●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。各主体は、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任はありません。

2019年3月期通期 企業業績

業種名	前年比増益率(純利益)
東証株価指数500（除く金融）	▲4.9%
製造業	▲9.8%
非製造業(除く金融)	+1.8%

東証株価指数500採用企業(除く金融)の増益率推移



※上記の企業決算については、2019年5月20日時点で通期決算発表を終えた東証株価指数500採用企業（除く金融）のうち、前年との比較が可能な344社につき集計。2020年3月期予想については東証株価指数500採用企業につき集計。

出所：リフィニティブのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

国内企業業績の動向と株式市場

作成日 2019年5月27日

《国内主要企業の2019年3月期通期業績》

企業名（証券コード）	業種	予想純利益(億円)	実績純利益(億円)	予想との比較 ※
トヨタ自動車(7203)	輸送用機器	19,815	18,828	×
ソフトバンクグループ(9984)	情報・通信	12,487	14,112	○
ソニー(6758)	電気機器	8,250	9,163	○
キーエンス(6861)	電気機器	2,433	2,261	×
武田薬品工業(4502)	医薬品	1,447	1,091	×
日産自動車(7201)	輸送用機器	4,397	3,191	×
NTTドコモ(9437)	情報・通信	6,916	6,636	×

出所：リフィニティブのデータおよび各種報道を基に明治安田アセットマネジメント作成

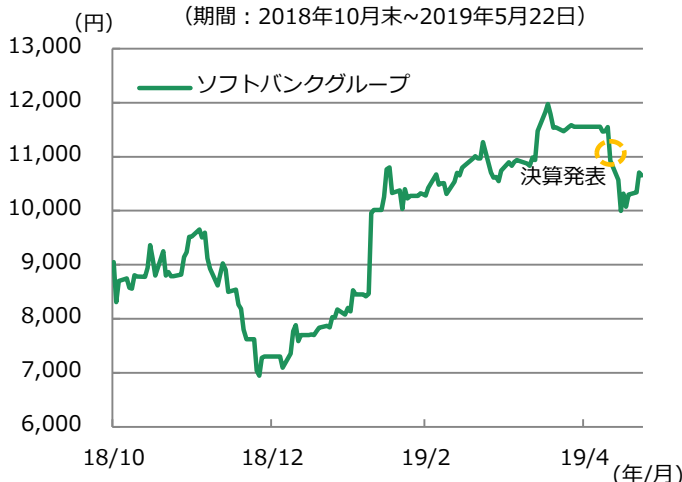
※実績純利益が予想純利益を上回った場合は○、下回った場合は×

ソフトバンクグループ（9984）

- 2019年3月期通期決算は、純利益が1兆4,112億円と過去最高益を記録するとともに、前年比約+36%の大幅増益となりました。
- 同社が手掛ける投資事業、ソフトバンクビジョンファンド（SVF）の時価が増大し、収益に大きく貢献しました。
- ビジョンファンド2の設立準備が発表され、孫正義社長は「ビジョンファンドに対する情熱が私の情熱の97%」とコメントしました。今後は、投資事業への傾斜が強まりそうです。
- 概ね決算内容は好感されたものの、米中貿易摩擦への懸念が広がり、市場全体の投資家心理が悪化したため株価は連れ安となりました。

株価推移

（期間：2018年10月末～2019年5月22日）



出所：ファクトセットのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

日産自動車（7201）

- 2019年3月期通期決算は、純利益が3,191億円にとどまり、前年比約▲57%の大幅減益となりました。また、来期も大幅減益となる見通しが示されました。
- 欧米での販売台数の減少が響いたほか、原材料や関税などのコスト、環境対応や商品性向上に伴うコストなどが業績を下押ししました。
- 2020年3月期を底に業績が回復する見通しが示されましたが、事業の正常化には2、3年程度の時間を要する可能性が示されました。
- 決算発表後は株価は大幅に下落しました。

株価推移

（期間：2018年10月末～2019年5月22日）



出所：ファクトセットのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

※上記の個別銘柄への言及はあくまでも例示をもって理解を深めていただくためのものであり、個別銘柄の推奨または投資勧誘を目的としたものではありません。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。

●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。各主体は、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任はありません。